

各位

積水ハウス株式会社

住宅緑化推進プロジェクト「5本の樹」計画 住宅地への植栽本数累積1000万本を達成

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則)は、2001年からお客様とともに取り組んできた生態系保全を目指した庭づくり・まちづくり「5本の樹」計画において、2013年12月末で植栽本数累積1000万本を達成いたしました。

植栽本数累積1000万本 達成



積水ハウスは、エクステリア事業の売上高が年間500億円規模となる日本最大の造園会社でもあり、その庭づくりの思想の根幹にあるのが「5本の樹」計画です。

よい住まいは「家」と「庭」が一体となってはじめて実現できると考え、「生活スピードをゆるめ、ゆったりとした時間を取り戻すための空間」として「スローリビング」を積極的に提案するなど、後まわしになりがちな外構・造園計画を建物の設計段階から一体と考えていく「敷地まるごと設計」を推進してきました。

分譲地などのまちづくりやマンションなどの大規模建築においても一定の基準を設け、緑豊かな美しい街並みを実現する多くの樹木を植栽してきました。さらに賃貸住宅でも緑あふれる環境を付加価値として加えた「シャーマンガーデンズ」の取組みを推進してきました。

豊かな緑のある住環境は当社のブランドビジョン、先進の技術(SMART)で快適で潤いのある暮らし(SLOW)を実現する「SLOW & SMART」における重要な構成要素のひとつです。

今後は都市部の3階、4階建て住宅などにも緑化をおこなうことができるよう、壁面緑化など提案メニューを拡充し、「5本の樹」計画の範囲も広げ、より大きく推進してまいります。

当社のこれらの取り組みの結果、多くのお客様のご理解とご参加を頂き、1000万本という金字塔を打ち建てることができました。今後も生態系保全を目指す庭づくり「5本の樹」計画を、一邸一邸からまち全体へ、さらに地域へ、そして社会に広げ、業界をリードしてまいります。

「5本の樹」計画の意義

- ①自然の豊かさを楽しむ住まいづくり
- ②資産価値の向上
- ③生態系の保全

「5本の樹」計画とは

- ・豊かな生態系を育ててきた“里山”を手本に、日本を5つの気候区分に分け気候風土に適した自生種・在来種を中心とした庭づくり
- ・鳥や蝶などが樹木の実や花蜜、そこに集まる虫の小さな生態系に着目。我が家の庭で人と生き物がともに生きる豊かな暮らしを提案
- ・スローガンは「3本は鳥のために、2本は蝶のために、地域に合わせた日本の在来樹種を」
- ・「5本の樹」の庭を増やすことで、まちと森・里山を結ぶ「生態系ネットワーク（右図）」の形成を推進



①自然の豊かさを楽しむ住まいづくり

「スローリビング」の提案

2010年より推進している快適な住空間の実現として、大きな開口部を設けた室内と、縁側空間や土間空間といった中間領域によって、庭を上手に生活空間に取り込み、ゆるやかにつなげる「スローリビング」。その庭づくりにおいても、もちろん「5本の樹」が主役となります。庭に季節の移ろいを感じさせる野鳥のさえずりや蝶の舞う姿、虫の声などによって、潤いのある暮らしを実現。豊かな生態系を戸建レベルで復活させ、大きなネットワークの一つとなります。

まちづくりへの展開

当社は2005年より独自の「まちづくり憲章」を制定し、全国で展開する開発地で住めば住むほどに美しさが増す「経年美化」のまちづくりを推進しています。地域の生態系の保全・育成を基本方針のひとつとして、「5本の樹」計画を採用しています。樹木だけでなく、もともとの地形やシンボルツリー、自然石なども上手に生かし歴史風土に配慮したまちなみを形成しています。

賃貸住宅「シャーマンガーデンズ」の普及

将来まで選ばれ続ける賃貸住宅であるために街や自然、住むひとなど、様々な視点から敷地環境を高める当社独自の「5つの環境プレミアム」を指標として「シャーマンガーデンズ」の提案をおこなっています。その指標のひとつに「自然環境の保存と再生」を掲げ、「5本の樹」計画を採用し、入居者にとって魅力的な敷地環境を創っています。

都市型3階、4階建住宅への壁面緑化の提案

樹木を十分に植える面積のない都市部の狭小宅地において、今後は壁面緑化等で立面的な緑も提案していきます。都市型3階、4階建て住宅の1割で採用を目指します。

②資産価値の向上

「経年美化」のまちづくり

当社では「5本の樹」計画に基づいたまちづくりを推進しています。時間の経過により資産価値が低下するのではなく、経年変化とともに樹木が育ち、歴史を刻みながらより美しさを増し、住む人々にも愛着を育むことで、良好なコミュニティ形成にも貢献します。「まちなみ参観日」として、美しいまちなみや景観、成熟したまちの雰囲気などを実感いただき、当社のまちづくりに関する考え方を知って頂くための全国イベントを開催しています。

経年変化による資産価値の推移を周辺と比較

豊かな緑は成長して住宅や街を美しく彩り、景観美の優れた街は経済的にも資産価値を維持します。1989年にまちびらきした「シーサイドもち」(福岡県福岡市・藤崎駅より約1,300m)と、より駅に近い隣接エリア(藤崎駅より約350m)の基準地価格を比較してみると、1998年時点では㎡あたり5.6万円ほどの差がありましたが、9年後の2007年では差がなくなり、その後はより駅に近い隣接エリアを上回る基準地価格で推移しています。樹木の成長とそれに伴い一体化する建物が美しさを保ち、居住者が愛着を持てるまちとなることで、新しいまちのブランドを創造しています。

1994



2008



コモンシティ星田(大阪府交野市)

賃貸住宅「シャーマンガーデンズ」

積水ハウスの賃貸住宅「シャーマンガーデンズ」では、一般的に一戸建ての住宅にくらべ緑化率の低い賃貸住宅においても、一定の基準を設け「5本の樹」計画にもとづいた提案をおこなっています。緑豊かな賃貸住宅は入居者にとっての住環境を向上させ、オーナーにとっても空室率や賃料の下落をおさえることとなり、また資産価値の向上や維持にもつながります。



③生態系の保全

積水ハウスでは「5本の樹」計画が生態系に与える効果を検証するために、全国6カ所の大規模分譲地で「いきもの調査」※を継続して実施しています。効果の著しい分譲地では1年前と比べて鳥類が3種から8種、昆虫類が4種から32種に増えたり、小型昆虫を捕食するギンヤンマなどの大型昆虫が観察されたりするなど、豊かな生態系の回復に効果があることが確認できています。

豊かな自然を持つ住宅地の成熟は、地域の評価を高めるいわば公共財ともなります。

「5本の樹」を普及するためのツールを整備 「庭木セレクトブック」「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイト

「5本の樹」の樹種(190種以上の植物)と生き物の関係などをカラーで紹介。2001年のスタートから約16万冊を配布し、お客様の庭づくり計画などに活用いただいています。

2013年12月からはペーパームービーがその場で見られる機能を新たに追加。スマートフォンなどのタブレット端末で画像を読み取ることでテーマに合わせた映像と解説を見ることができ、庭づくりを通して自然を楽しむことに興味を深めていただくことができます。

また、植栽された「5本の樹」にはQRコードが印字された「植栽カード」をつけ、専用の「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」サイトで樹木とそれに集まる鳥や蝶などの種類や名前を知らなくても写真や鳴き声で確認したり、親子で楽しみながら学ぶことができ子どもの情操教育にもつながります。



このマークの付いた画像を読み取ると、動画を見ることが出来る

全国80社の植木生産者や造園業者とのネットワークを構築

「5本の樹」計画の事業化に際しては、これまで「園芸品種・外来種」に押され市場での流通が少なかった「自生種・在来種」を生産する、全国約80社の植木生産者や造園業者とのネットワークを構築することから準備をすすめました。「園芸品種・外来種」は見た目はきれいでも、生物多様性の観点からは多くの課題があります。

1000万本の達成は、「5本の樹」計画の思想を理解していただける生産者との緊密な協力関係を築くことで成し遂げることができました。

専門家「グリーンエキスパート」を育成し「5本の樹」計画に基づく提案を

積水ハウスグループでは社内の専門研修を行い、一定基準を満たした社員を「グリーンエキスパート」(社内資格)として認定しています。「グリーンエキスパート」は庭木それぞれの性質や適した土壌などを専門的に理解し、庭木の剪定や管理手法など、みどりに関する知識を活かして「5本の樹」計画に基づく提案を行っています。

2006年に認定を開始して以来、「グリーンエキスパート」は現在68名となり、そのうち「樹木医」資格を有する社員も15名に上っています。

※ 「いきもの調査」とは、「5本の樹」計画のまちづくりが生態系に与える効果を、専門家にも協力をあおぎ評価分析するもので、住宅メーカーが自社の分譲地を対象として行う生物多様性の調査の調査は、他に例のない取組みです。また、地域の住民が身近な環境で楽しみながら生物多様性について学ぶ機会となる、住民参加型の「いきもの観察会」も実施しています。



住民参加型の「いきもの調査」の様子

当社のこれらの取り組みの結果、多くのお客様のご理解と参加を頂き、1000万本という大きな数を達成することができました。今後も生態系保全を目指す庭づくり「5本の樹」計画を、一邸一邸からまち全体へ、さらに地域へ、そして社会に広げ、業界をリードしてまいります。